

「稲むらの火の館」が リニューアルされました

昨年12月に稲むらの火の11月5日が国連で、「世界津波の日」として制定されました。それ以来、外国の駐日大使様等の要人をはじめとした外国からの研修に、大勢来館されています。こうしたことから、和歌山県では、当館の3Dシアターの音声を多言語で聴取できるように改修されました。英語、中国語、韓国語、インドネシア語、フランス語をイヤホンで聞くことができます。日本国内の人々だけでなく諸外国の方々にも津波防災の研修をしていただくことができるようになりました。

広川町も、館内の展示を多言語化する作業をすすめています。完成はもう少し先になりますが、一部で、表示は日本語と英語ですが、QRトランスレーターで、英語・中国語・韓国語・インドネシア語・フランス語・スペイン語で対応することができます。外国語の勉強にも活用できると思います。一度試してください。

マスコミ関係内覧会

10月25日、この館内リニューアルの内覧会、説明会を開催いたしました。10社の、新聞社、テレビ、ラジオ局が来館され取材していただき、それぞれ、報道してくれました。



スマホをかざして外国語を読み取る風景

第14回稲むらの火祭り

恒例となった「稲むらの火祭り」は今年14回目を迎えました。特に今年は「世界津波の日」が制定されて初めての「火祭り」ということででしょうか、幅広い参加があったようです。



千葉県から「銚子木国会」のメンバー10人が参加されました。「銚子木国会」というのはかつて、紀州から房総へ移住して活躍した人々の子孫の集まりということです。「火まつり」を前にして、「稲むらの火の館」の見学にも来館され、熱心に見ていただきました。

遠くは岩手県から来られたということで、これまでの最遠ということです。町内だけでなく多くの方々の参加は、津波防災の啓発の大きなエネルギーになっていく事でしょう。

今年は、準備の段階で耐久中学校の3年生が松明づくりにボランティア参加されたそうです。多くの人々のボランティアによって支えられている「火まつり」の益々のご盛會を祈念いたします。

~~~~~

## 月刊「歴史街道」に掲載

月刊「歴史街道」11月号に掲載されました。  
～なぜ十一月五日が「世界津波の日」？～  
「安政の大津波で濱口梧陵が点した希望の火」という見出しで掲載されました。

現代語訳「濱口梧陵傳」から

内存奉申上口上

一、広村のことでございますが、昔から度々高波の被害が記録に残されていることを知っておりましたが、目の前で昨年十一月五日の災害に遭い、それぞれが生計の道を失い途方に暮れる状態です。いろいろと利害を論し、人の心を励ましてもおりますが、何分にも恐怖が大きかったため、今でも少しの地震や風波でも家財を持ち運び、高いところに逃れる支度以外には他に考えも及ばず、破損した家屋の修繕なども手に付かないだけでなく、人々の心が自然とこの土地を嫌い、とにかく今後どうなるうとも、他の土地で稼ぐためにこの地を離れようとしております。女子供までがこの土地を離れるようになりましては、元もと人口も少なくて成り立っていくことが難しい村は、たちまちの内に移り変わってしまい、村人たちは路頭に迷い、本当に容易ならざることとなると思われまので、先だって口上を以てお願い致しました波除け堤防、高さ二間半長さおよそ五百間余りのものを造築するお許しをいただきますようお願い申し上げます。これに必要な工費は恐れながら私がどのようにしても調達いたし、完成の暁には以後、万が一津波がございまして人命は勿論、田畑や家屋、家財なども無事であるという見込みが立ちますので、人心も落ち着き、追々村のためにもなると愚考しており、ここにお伺い申し上げます。被災した村が復興するために温かいお考えをいただきますようお願い申し上げます。何分、人の心が安心し、土地を大切に思う気持ちでなくては、どのような復興策も立てることが出来ません。土手を造る場所の様子を早々にご見聞頂き、造営の免許を頂きたく、手厚くお取り扱い下さいますよう内々ながら願ひ上げます。以上。

(以上は、濱口梧陵が安政津波の後、紀州藩へ堤防築造の申請書。)

「濱口梧陵傳」は、1,500円で販売中

「歴史まちづくり」に認定

広川町が国に申請していた「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」(歴史まちづくり法)により、国の認定を受けました。この計画認定により、「稲むらの火」にちなんだ伝承や町内の史跡、文化財の整備などの財政支援を受けることができます。「世界津波の日」の制定によって、「稲むらの火」の認知度が広まっていますが、更にきめの細かい事業等で、一段と町の活性化につながっていくことでしょう。



<募 集>

昭和21年の昭和南海地震・津波の体験談を募集します。昭和21年12月21日早朝に、起った昭和の南海地震で、広川町には最高で約4mの津波が押し寄せてきました。

これまでも、いろいろなところで体験談を聞かれた方もおられると思いますが、「稲むらの火の館」でもお聞きしたいと思います。

ご連絡をお待ちしています。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL: 0737-64-1760 / FAX: 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

\*開館時間: 午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日: 月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29~1/4)

\*記念館だけの入場は無料です。

